

第7回 FUTURE DESIGN 2024

特別報告③

「フューチャー・デザイン・コンソーシアムの挑戦」

立命館大学 教学部における 研修実施報告

立命館大学 教学部

2024年9月15日

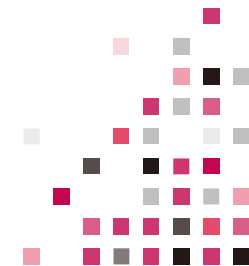
Futurize.

きみの意志が、未来。



本日の報告内容

1. 研修目的・獲得目標
2. 研修内容
3. 当日の様子
4. アンケート結果およびコメント等
5. 今後の展開





立命館大学について

4キャンパス 16学部・21研究科
学生数：約37,500名

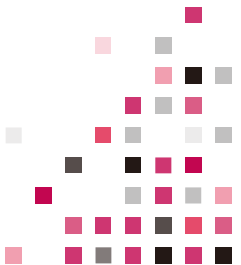
左上：衣笠キャンパス（京都）
右上：朱雀キャンパス（京都）
左下：びわこ・くさつキャンパス（滋賀）
右下：大阪いばらきキャンパス（大阪）



法人全体：専任職員597名 契約職員等476名
教学部：専任職員223名 契約職員等174名

専任職員のうち、約37%の職員は教学部所属

※上記数字はいずれも2024年5月1日時点





教学部について

教学部：立命館大学の教育に関する業務 （「学校法人立命館館則」規程）



当課入口サイン

部署名	所在地（キャンパス）	専任職員数
教学推進課	衣笠	25
全学教育課	衣笠・BKC・OIC	22
学部・研究科事務室	衣笠・朱雀・BKC・OIC	165
教職教育課	衣笠・BKC	6

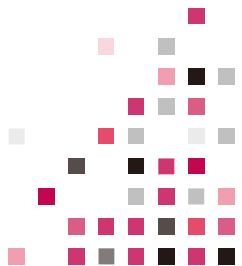
※上記表のほか、部長1名・次長4名

※上記数字はいずれも2024年5月1日時点

※BKC：びわこ・くさつキャンパス

※OIC：大阪いばらきキャンパス

**夏期研修として「フューチャー・デザインの手法を理解する」を
2024年9月5日（木）に実施** ※きっかけは岡本先生からの情報共有





1. 研修目的・獲得目標

研修目的

「未来に軸足を置いて今すべきことを考える」という手法を「職員マインド」として取り入れるため

獲得目標

- ① 研究的側面から見た「フューチャー・デザイン」を理解する
- ② 教育手法としての「フューチャー・デザイン」を理解する
- ③ 個々人として「フューチャー・デザイン」を体験して業務に活かす

2. 研修内容

講師

ご担当：講義＋講評

西村 直子（にしむら なおこ）教授
本学食マネジメント学部
大阪大学社会経済研究所特任教授

教員紹介ページ（食マネジメント学部ホームページ）

<https://www.ritsumeikan.ac.jp/gast/teacher/nishimura/>



ご担当：講義＋体験ワーク

岡本 剛（おかもと つよし）准教授
九州大学 基幹教育院

九州大学 岡本剛研究室（九州大学基幹教育院ホームページ内）

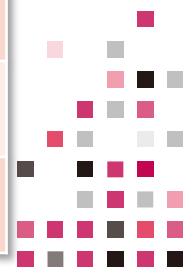
<https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~okamoto/index.ja.html>

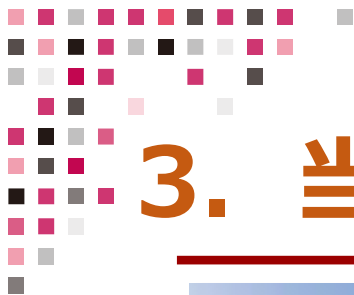




2. 研修内容

	内容	所要時間 (約)
西村先生	フューチャー・デザインについて① (研究から)	40分
	休憩	5分
岡本先生	フューチャー・デザインについて② (教育から)	40分
	休憩	5分
岡本先生	アイスブレイク (自己紹介等)	10分
岡本先生	フューチャー・デザイン体験ワーク	55分
岡本先生	グループ発表 (数グループ)	10分
西村先生	体験ワーク講評	5分
	先生方への質問	10分





3. 当日の様子

<参加状況>

講義151名（対面47名+オンライン104名）

体験ワーク44名 ※当日は卒業合否発表・成績発表日・・・



大阪いばらきキャンパス新棟H棟



Learning Infinity Hall

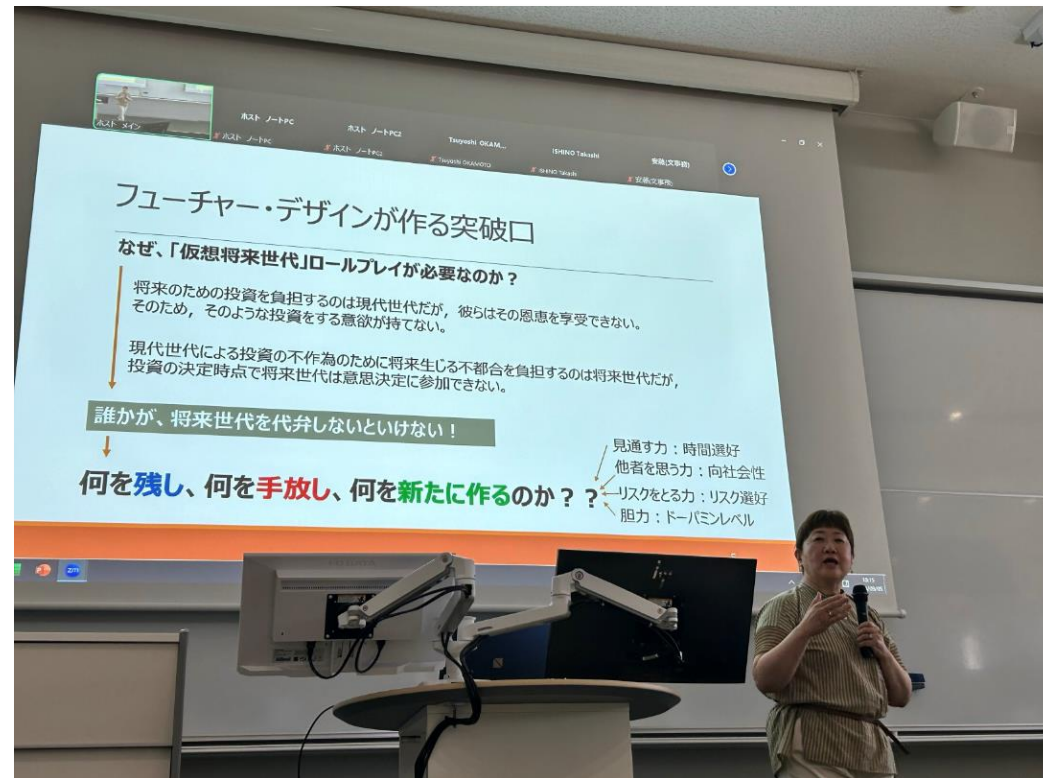
もっと
挑戦が動き出す
キャンパスへ。



大阪いばらきキャンパス
(JR茨木駅徒歩5分)
2024年開設新棟H等内
Learning Infinity Hall
にて実施



3. 当日の様子（講義①：対面＋オンライン）



西村先生の講義中の様子（Zoom配信中）

3. 当日の様子（講義②：対面＋オンライン）



岡本先生の講義中の様子（Zoom配信中）

3. 当日の様子（体験ワーク：対面のみ）

テーマ：「125年後の教育を考える」

※立命館は1900年創立

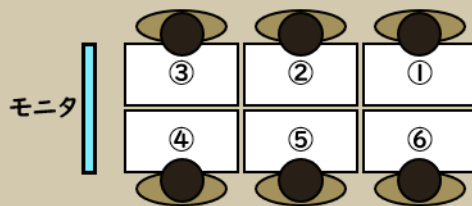
役割と物品の確認（14:57まで）

● 役割の例

- 進行係：勤続年数が最も短い人
(うまく回せないときは若い番号から振って)
- 板書係：勤続年数が最も長い人
(字が下手でも漢字をど忘れしてもOK)
- その他の人は盛り上げましょう

● 物品

- 模造紙、付箋紙、ペン
- 過去の年表
- スペシャル・タイムマシン



あまり時間がないので、
ブレインストーミングのように
思いついた意見をぽんぽん出して
進めていきましょう

将来人になって将来をイメージしよう

1. そのリストバンドっぽいものは、
今の年齢のまま
今の場所の125年後(2149年)
に行ける超小型タイムマシンです。
2. タイムマシンを装着してください。
3. 次のスライドが表示されて
タイムマシンの作動音が鳴り始めたら
目を閉じてください。
4. **2149年の大学と人々の暮らし**を想像
してください。



当日の方法等
(岡本先生作成スライド)

「タイムマシン」としては
青いリストバンドを用意
(岡本先生作成スライド)

3. 当日の様子（体験ワーク：対面のみ）



グループワーク中

- ※4～5人で1グループ
- ※**若手1人以上各グループへ配置**
- ※パスト・デザイン用に、本学の歴史、文科省年表、社会情勢等をまとめた「オリジナル教育年表」を配布

グループ発表中 (各テーブル)



グループ発表中 (各テーブル)

3. 当日の様子（体験ワーク：対面のみ）

グループ発表①

①プレゼント・デザイン（現状分析）

キャンパスによって施設・設備が異なり、その差が激しい

②パスト・デザイン

キャンパス拡充を計画してきた時に、
この差までは検討していなかったのではないか

③フューチャー・デザイン

125年後の大学は「集まる空間」であり、キャンパスという概念がないため、2024年の人たちは、「大学設置基準にとらわれない、ルールを超えた新たな教育」をいち早く追求すべき

面白い！！



3. 当日の様子（体験ワーク：対面のみ）

グループ発表②

①プレゼント・デザイン（現状分析）

現在の学生は、「学びたい」と思っているよりも
「就職に有利だから」という理由で大学に来ているのではないか

②パスト・デザイン

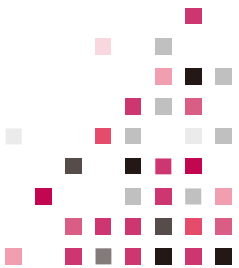
政府の政策により、大学が大衆化したことや、
本学では1999年にキャリアセンターを発足させて以来、
就職をアピールし過ぎたのではないか

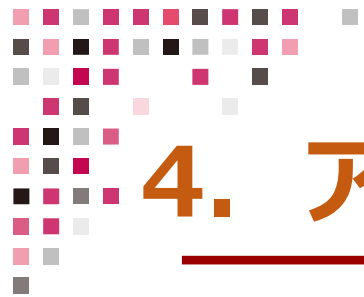
③フューチャー・デザイン

125年後の大学はキャンパス自体がバーチャルとなり、
授業は全てAIが担っており、教員は研究に特化しているので、
2024年の人たちは、キャンパスや施設等は拡大するべきでない



やはり
面白い！！





4. アンケート結果およびコメント等

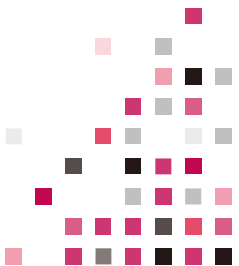
- ① 講義に関する評価（7項目）
- ② 講義に関する自由記述
- ③ 体験ワークに関する評価（6項目）
- ④ 体験ワークに関する自由記述
- ⑤ 勉強会等への意欲（3項目）

使用ツール：Microsoft Forms

集計期間：6日間

回答者数：83名（回答率：／151名＝約55%）

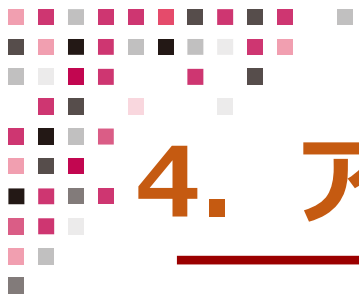
※体験ワークは29名（回答率：／44名＝66%）



4. アンケート結果およびコメント等

講義	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	全くそう 思わない	総計
参加してよかった	24	49	8	1	1	83
時間配分は適切であった	20	40	16	5	2	83
FDについて(研究から)理解できた	13	53	15	2	0	83
FDについて(教育から)理解できた	11	58	13	1	0	83
FDは研究に活用できる	10	41	30	1	1	83
FDは教育に活用できる	18	43	20	1	1	83
FDは業務に活用できる	14	46	18	3	2	83

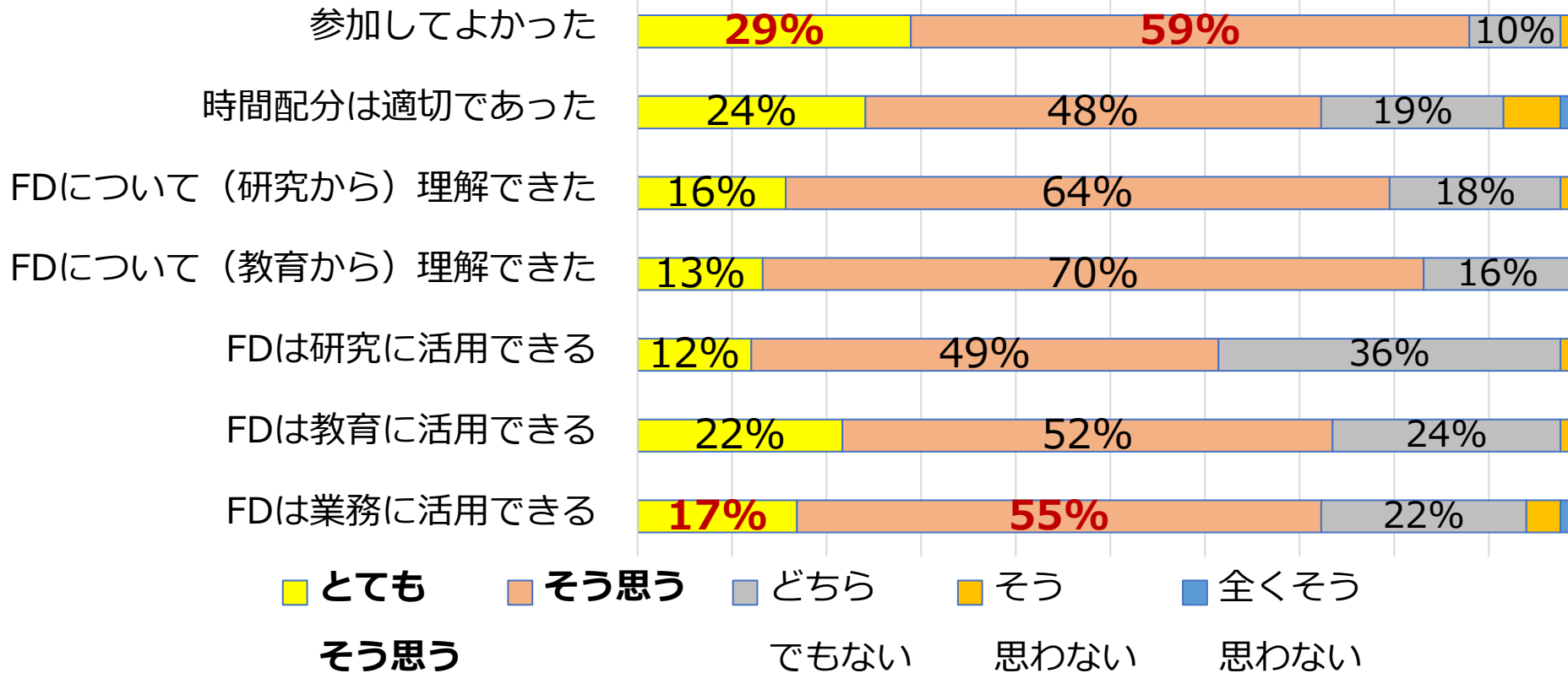
体験ワーク	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	全くそう 思わない	総計
参加してよかった	11	16	1	1	0	29
時間配分は適切であった	3	5	5	13	3	29
参加したことでFDの理解がより深まった	6	19	2	2	0	29
参加して、FDは研究に活用できると感じた	3	17	7	1	1	29
参加して、FDは教育に活用できると感じた	5	19	3	1	1	29
参加して、FDは業務に活用できると感じた	6	16	5	1	1	29



4. アンケート結果およびコメント等

講義

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



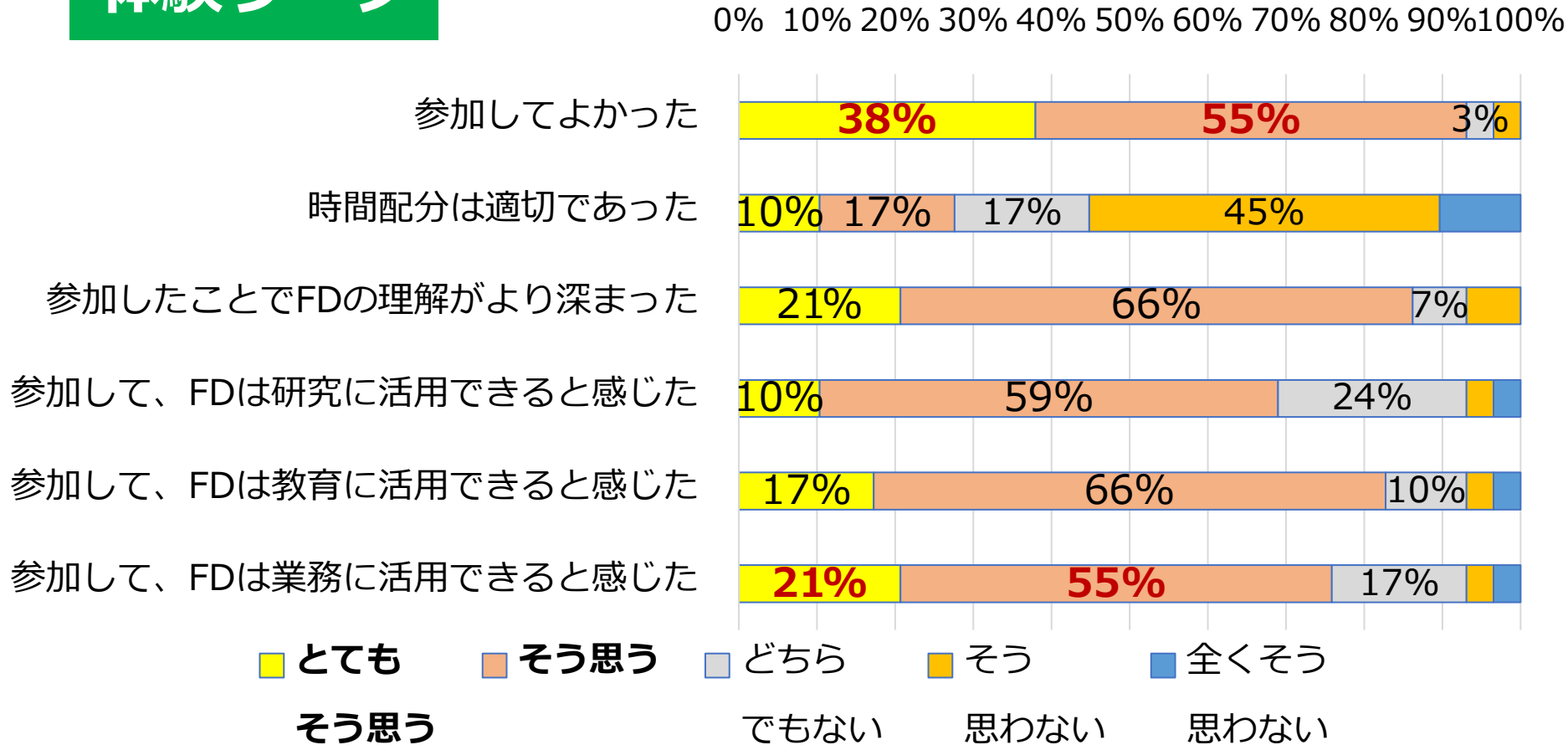
「参加してよかった」は「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が88%

「業務に活用できる」は「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が72%



4. アンケート結果およびコメント等

体験ワーク



「参加してよかった」は「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が**93%**

「業務に活用できる」は「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が**76%**

4. アンケート結果およびコメント等

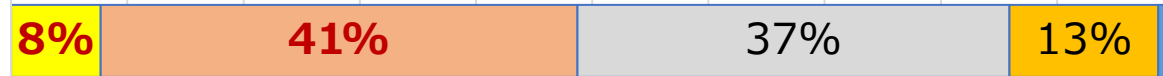
勉強会等	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	全くそう 思わない	総計
勉強会に興味がある	7	51	12	8	1	78
FDのファシリテーターのスキルを 身に付けて業務に活用してみたい	6	32	29	10	1	78
興味はあるが参加は難しい	5	16	37	16	2	76

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

勉強会に興味がある



FDのファシリテーターのスキルを
身に付けて業務に活用してみたい



興味はあるが参加は難しい



■ とてもそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらでもない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない

「勉強会～」は、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が**74%**

「ファシリテーター～」は、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が**49%**



かなりの人数に期待！！

4. アンケート結果およびコメント等

思考の変化

難しさの実感

業務への活用

特徴的な自由記述（講義）

将来を考察する手法として、より丁寧に、より説明的なものとして「フューチャーデザイン」の手法があること、自治体などの将来構想で実践されていること、をよく理解できた。現在の年齢のまま将来を考察する点は、全ての世代が参加することができて、広範な視点を反映できる点が好ましい。

現在の自分たちの選択が未来に与える（かもしれない）影響を、自分事として捉えられるか否か、ということなのかなと思いました。面白い考え方ですが、想像力の乏しい私にはなかなか難しかったです。

仮想現実世代 という視点での必要性や発想が初めてで、将来の負債も果実も現役世代ではなく将来の世代が背負うという発想での制度検討の必要性は、とても腑に落ちた。「もっと」「もっと」となる制度設計や目標設定は、身近にも陥っている状況があるので必要な視点を頂けたと思いました。

現在に視点を置いた時は「もっともっと」な思考になる一方で、フューチャー・デザインの手法を用いることで、考え方が変わるという点が特に印象的でした。短期的な業務改善・効率化でも使えるような考え方だなと感じました。

過去から考えてみる手法だったことは知らなかったりと、先生方の講義を聞いてこの手法についての理解が深まり、今後の業務において活用していけたら業務の幅、質も高まる気がした。



4. アンケート結果およびコメント等

思考の変化

難しさの実感

業務への活用

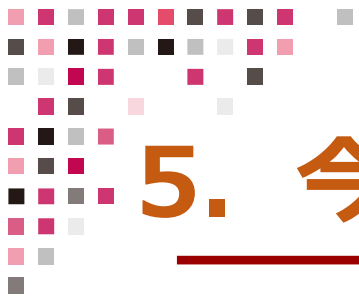
特徴的な自由記述（体験ワーク）

時間は短かったが、実際に体験する前と後で自分の考えが変わったことに気づくことができた。これから自分自身の考えを構築する中で、ぜひ活用したいと感じた。

講義を踏まえてすぐに演習に取り組んだことで、フューチャーデザインの手法の理解を深めることができた。将来から過去を振り返って、事柄・原因を取り上げる際、批判的な視点で取り上げてしまっていたことに気付けた。将来の新しいことは「これまでを否定する」ことではなく、よかった点、さらに伸ばさせるべき点があることを再認識することができた。

講義を聞くだけでは理解しきれていなかった、思考の仕方を実際に体験してみても（特に、まずパストデザインをしたことで）理解を深めることができました。125年先の世界を考えるのは、わくわくしましたが、難しかったです。

フューチャー・デザイン、パスト・デザインいずれもワークの時間が短く、自身のファシリテーションの力量不足も大きいですが、あまり活発に議論ができなかった。また、フューチャー・デザインに取り組むにあたり、将来世代になりきるにはもう少しトレーニングが必要だと感じた。しかしながら、100年以上の大きな時間を超えて大学や教育、わたしたちの生活を行き来した経験は、「常識」「当たり前」を見直すに機会としても効果的だと考える。



5. 今後の展開

Futurize.

きみの意志が、未来。

未来とは何か？

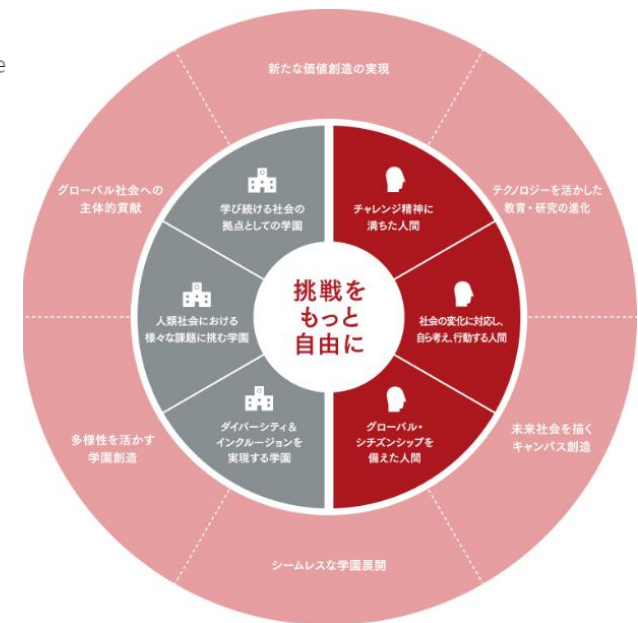
それは、不確実なもの。答えなきもの。

だからこそ、自らの手でつくることできる。

学園ビジョンR2030

挑戦をもっと自由に

Challenge your mind Change our future



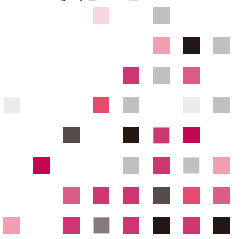
本学園の "Futurize" と "フューチャー・デザイン"

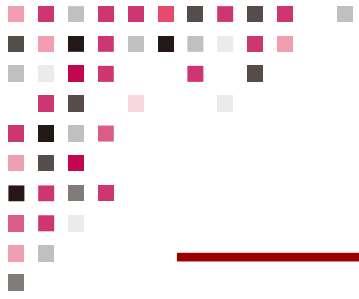


5. 今後の展開

【★今後検討していくべきこと】

- ① 教務部内でのフューチャー・デザイン企画の継続
- ② コアメンバーの養成（ファシリテーター等）
- ③ 学内他部課への浸透（上層部にも）
- ④ 教員への浸透（ファカルティ・ディベロップメント実施による授業内実践や科目新設等）





Futurize.



RITSUMEIKAN ANNIVERSARY

ご清聴頂き
誠にありがとうございました

